
そうして君に惹かれてく... another story

飴玉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そうして君に惹かれてく… another story

【Nコード】

N0881I

【作者名】

飴玉

【あらすじ】

本当に大切な人は近くにいるのかもしれない。君が僕を好きでいてくれるから、僕は君と歩くことに決めたんだ。

(前書き)

香田くんの物語です。

高校生になって、僕は恋をした。

相手は一つ年上の人。

文芸部の四月一日美緒先輩だ。

彼女との接点がほしくて文芸部に入った。

「先輩目当てで文芸部？ばっかじゃないの？」

幼なじみの幸子さいこにはバカにされた。

でもいいんだ。少しでも先輩のそばにいられるのなら。

実際のところ、本を読んだり、文を書くことはあまり好きではなかった。

でも、文字を目で追う彼女の横顔を見ているのは好きだった。

部室に二人きりになったときはチャンスだと思ったね。

突然の僕の告白に先輩はオツケーしてくれた。

付き合ってから、二人で遊びにも行った。

美緒先輩という時間は幸せだった。

でもそんな幸せも、長くは続かず、突然の別れがきた。

僕とはもう、付き合う意味がない。だから別れると言うのだ。大好きな、美緒先輩が。

「じゃあ、さようなら。香田くん」

微笑む美緒先輩は綺麗で、冷たくて。

僕はただ呆然とそこに立っていた。

部室にはいたくなくて教室に行ったら、幸子がいた。

「香田？」

僕がよつぽど変な顔をしていたのか、幸子は心配そうだった。

「先輩にふられたよ…」

幸子は自分のことのように、つらそうな顔をした。

「なんでおまえがつらそうなんだよ」

「だって、あんたが作り笑いなんかするから…」

幸子の言葉に俺は何も言い返せなかった。

そしてしばらく、沈黙の時間が流れた。

先にそれを破ったのは幸子だった。

「じゃあさ…」

いつの間にか、教室は橙色に染まっていた。

「あたしにしときなよ」

「え？」

突然の幸子の告白に僕は頭がついていかなかった。

「その先輩の代わりにはなれないけど、雅樹を幸せにしてやるからさ」

しかし幸子の言い方に思わず、吹き出した。

「おまえ……格好よすぎるよ」

「まあね」

白い八重歯をのぞかせて、幸子は笑った。

もしかしたら美緒先輩の大人びた笑顔より好みかもしれない。

「僕と付き合ってくれる？」

「オツケー！」

そうして僕はまた、恋をした。

幸子と付き合い出してから数日たったある日、美緒先輩と萩原先輩が一緒に歩いているのを見た。

そのときの美緒先輩の顔は僕といたときよりも楽しそうで。

なんだか微笑ましく思えた。

一度好きになった人だ。幸せにはなってほしいと思う。

萩原先輩と目が合った。

僕はいろんな思いを込めてお辞儀して、幸子のところへ向かった。

僕にはもう他に好きな人ができたから……。

今は幸子のそばにいて、幸子だけを見ていたいと思う。

さよなら、ワタヌキ先輩。

(後書き)

別れもあってこそその、恋愛なのかもしれないね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0881i/>

そうして君に惹かれてく... another story

2010年10月10日08時00分発行